

エンパワメントを意図した乳児家庭全戸訪問における支援の効果 —自由回答式アンケートに記載された利用者の意見の質的分析から—

石川麻衣¹⁾ 小澤若菜²⁾ 時長美希³⁾

(2011年9月27日受付, 2011年12月13日受理)

Efficacy of support provided during visits to all households with infants to promote empowerment: Based on analysis of open-ended responses in a user questionnaire

Mai ISHIKAWA, Wakana OZAWA, Miki TOKINAGA

(Received: September 27, 2011, Accepted: December 13, 2011)

要 旨

乳児家庭全戸訪問による支援の効果を明らかにし効果的な支援方法の示唆を得ることを目的に、1市において自由回答式のアンケート調査を行い、331人(母親329人、父親2人)の記述内容を質的帰納的に分析した。

その結果、支援内容は【話を聞いてもらえた】【尊重してもらえた】等の5項目であった。訪問の効果は【子育ての助けが得られた】【楽な気持ちになれた】【子育てに肯定的になれた】【子育ての価値が高まった】の4項目であった。制度・サービスの評価は、【訪問サービスの評価】と【制度への意見・要望】が含まれていた。

利用者の回答は、訪問によってエンパワメントを意図した支援が提供されていたことを裏付けており、さらに、それが利用者のエンパワメントを多面的に促進していることを示していた。利用者の意見から、さらに効果的な訪問活動を展開するために、訪問員の質の維持向上とコミュニティ・エンパワメントを意図した支援の強化が必要だと考えた。

キーワード：こんにちは赤ちゃん訪問 訪問指導 育児支援

Abstract

A questionnaire survey was conducted in one city in order to clarify the efficacy of support provided during visits to all households with infants and to obtain suggestions for effective support methods. Qualitative inductive analysis was applied to the responses of 331 individuals (329 mothers and 2 fathers) to the open-ended questions.

The results revealed five categories of feedback regarding support provided during the home visit, including “was able to have listened” and “was shown respect”. Feedback regarding the efficacy of home visits comprised four items, including “received help with childcare” “Put me at ease” “Made me feel positive about child-rearing” and “Raised the value of child-rearing”. Comments regarding the appraisal of the program and services were broadly divided into appraisals of the visit service, and comments and requests for the program.

User feedback confirmed that the home visits provided support aimed at empowerment and demonstrated that user empowerment was multilaterally promoted. These findings indicate the need for maintained improvement of home visitor quality and enhanced support aimed at community empowerment in order to develop effective home visit activities.

Key words: Hello Baby Visits, home guidance, childcare support

1) 高知県立大学看護学部 看護学科 講師 Department of Nursing, Faculty of Nursing, University of Kochi, Lecturer
2) 高知県立大学看護学部 看護学科 助教 Department of Nursing, Faculty of Nursing, University of Kochi, Assistant Professor
3) 高知県立大学看護学部 看護学科 教授 Department of Nursing, Faculty of Nursing, University of Kochi, Professor

I. はじめに

核家族化と少子化が進む中で、両親共に育児に関する知識・経験が乏しく、周囲からの支援を受けることが困難な状況となっている。支援が得られない状況におかれている母親は、周囲から孤立し、育児不安を抱えながらも子どもの世話に追われるため、追いつめられ、これらが産後鬱の発症や児童虐待の一因となる。このような状況への対策として、集団全体に働きかけることによってリスクのレベルを下げ、問題となる現象を予防するポピュレーションアプローチ¹⁾が着目されるようになった。そこで厚生労働省は、ポピュレーションアプローチを実施する方策の1つとして、生後4ヶ月までの新生児・乳児がいる家庭全てを訪問し、家庭と地域社会をつなぐ最初の機会とすることにより、乳児のいる家族の孤立を防ぎ、健全な育成環境を図るための「生後4ヶ月までの乳児家庭全戸訪問事業(こんにちは赤ちゃん事業)」を創設した。

乳幼児とその家族に対する訪問事業は、これまでも母子保健法に基づき、新生児訪問、乳児訪問、産婦訪問として実施されてきた。しかし、衛生・栄養状態に多くの問題を抱えており新生児からの保健指導が必要であった時代から、虐待予防を含む育児支援へと課題が移り²⁾、訪問活動の方向性は、ポピュレーションアプローチとしてエンパワメントに主眼を置いたものへと大きく変化した。このような訪問では、訪問が共感を持ち合う機会となるような仕組みや、住民と専門職・専門機関の信頼関係に基づく支援を行っていくことが重要な鍵となる³⁾。また、評価においても、エンパワメントの視点から効果を確認することが必要である。

エンパワメントは、「自身の生活をコントロール・決定する能力を開発していく力を獲得するプロセス⁴⁾」を意味しており、このような能力と能力が開発されたプロセスを捉えるための測定用具の開発が進んでいる。これまで、妊婦⁵⁾、産褥早期の母親⁶⁾、障害児を養育する家族⁷⁾のエンパワ

メント指標の開発は行われているが、子育て中の家族のエンパワメントを評価するための指標は未確立である。また、エンパワメントは力動的なプロセスであり、単一の測定用具では適切な測定が困難であることや、エンパワメントが文脈に密着した概念であるため文化の影響を受けやすいこともあり、質的な分析も必要であることが指摘⁴⁾されている。そこで、訪問事業利用者の声を質的に分析することを通じて、訪問の効果を幅広く捉える中から、エンパワメントとしての効果の有無を評価する必要があると考えた。

利用者の声を集める方法には、インタビューや自由回答式のアンケート等がある。インタビューは、個々の意見を掘り下げて聞くことができるが、時間を要するため、多数の対象者への実施が困難である。一方、アンケートは、直接回答者とコミュニケーションが取れないため、回答に対してさらに掘り下げて質問することはできないが、多数の対象者の意見を集めることが可能である⁸⁾。双方の利用手法に長所、短所が存在するが、ポピュレーションアプローチとして行われた本事業を評価するためには、事業を利用した者すべての声を集める手法を用いることが適切であると考え、利用者アンケートに自由回答として示された意見・感想の質的分析を行ったので、その結果を報告する。

II. 研究目的

エンパワメントを意図した乳児家庭全戸訪問による支援の効果を明らかにし、効果的な支援方法の示唆を得る。

III. 研究方法

1. 研究枠組み

本研究では、支援の受け手の主観的経験に基づく意見から支援の効果を明らかにするため、質的帰納的方法を選択した。訪問利用者が訪問後に得られたと感じた効果は主観に基づくものであり、それが支援によるものか否かの判断はできない。そこで、支援内容も合わせて、利用者の意見から

明らかにする必要がある。また、自分には効果として感じられなくとも、他の利用者が支援を受けた場合を想像することで、全戸訪問がもたらす効果を認識する可能性がある。このような効果は、制度・サービスに対する評価から捉えることができると考えた。以上より、利用者が受けた支援の内容、支援の効果、制度・サービスに対する評価の3つの視点を用いて効果を捉えることとした。

2. 対象者

一自治体における乳児家庭全戸訪問事業の利用者。対象となる事業として、子育て家族のエンパワメントを基本理念として位置付けているA市の乳児家庭全戸訪問事業「こんにちは赤ちゃん訪問(仮称)」を選定した。事業の概要を表1に示す。

3. 研究期間

平成20年4月～10月

4. 調査方法

アンケート調査を行った。児と母親の基本属性、育児状況、訪問の感想・意見に関する自由回答式の質問項目を設定した。訪問の終わりに、訪問員

がアンケート調査の趣旨を口頭で説明し、アンケート調査用紙および返信用封筒を手渡しした。2週間以内を目安に投函するよう依頼し、郵送で回収を行った。

5. 分析方法

質的帰納的分析を行った。自由回答の記述から、支援内容、支援の効果、サービス・制度の評価に関する記述を抽出し、意味内容を損なわないように簡潔な表現に書き改めた。これを、意味内容の類似するものでグループ化し、共通する意味を表す文章で命名した。分析結果について研究者間で検討を重ね、分析の妥当性の確保に努めた。

6. 倫理的配慮

A市の同意を得て調査を実施した。アンケートは無記名式で行い、アンケートの返送をもって研究参加への同意とみなすこととした。研究実施者が個人情報に接することがないように、訪問員および訪問利用者の個人名や住所など個人が推測できる情報を記号化した状態のデータのみをA市のデータ管理者より預かり、分析を行った。

表1：A市「こんにちは赤ちゃん訪問」事業の概要

事業開始の経緯	少子化が急速に進行しており、都市化や核家族化と相まって、地域や家庭における子育て力が低下し、子育ての孤立化が大きな課題となっていることから、こんにちは赤ちゃん訪問を平成20年1月より開始した。
訪問員	A市が実施した訪問員養成講座を修了した、保健師・助産師・看護師のいずれかの免許を持つ専門職。
支援内容	訪問利用者のエンパワメントを発展させるため、子育てをしている家族が自らの力を発揮して育児に積極的に取り組み健康的な家庭生活を送ることができるよう、予防的・支持的な支援を提供する。訪問全体を通して傾聴や共感といったコミュニケーション技術を用い、訪問終了までの間に、①子どもの成長が順調であること、十分に育児ができていることを伝える、②母親を元気づけ、育児する力と意欲を高める、③育児の楽しさを共有する、の3つの支援を実施することで、特に母親のエンパワメントを目指す。
訪問手順	訪問員に、以下のような訪問手順が具体的に示されている。訪問の導入段階で母親の話の傾聴、共感を通じて信頼関係を確立し、その後、妊娠・出産時及び出生時の状況把握、母親の健康管理、生活環境の把握、児の発達発育確認を通じて支援の必要性を判断しながら、必要に応じて、具体的な助言を行う。全体を通じて母親のエンパワメントのための声かけを行い、最後に、母親への質問事項の確認、資料の手渡し、訪問を受けての感想の確認を行う。
事業実施方法	出生届を基に対象者を把握し、訪問員が事前に訪問日時を決定し、通知文書を発送する。訪問員は、概ね生後2か月前後から4か月までの間に、原則1回の訪問を行う。訪問前後に、訪問員と市保健師とでミーティングを持つ。訪問前には訪問件数の確認を、そして訪問後には訪問結果の確認を行い、訪問後フォローの要否や、地域の子育て支援活動に活かすための意見交換を行う。

IV. 結果

1. 対象者の概要

アンケート回収数506のうち、自由回答の記述があったのは331人(母親329人、父親2人)であった。母親の年齢の平均は30.5歳(19歳-41歳、無回答6人)であった。訪問時の児の月齢(表2)は、2ヶ月が最も多く、次いで1ヶ月であり、1ヶ月もしくは2ヶ月で訪問を受けた利用者が95%以上を占めていた。児の出生順(表3)を見ると、第1子が半数を占めており、上の同胞がいる児とほぼ同数に近かった。

表2：訪問時の児の月齢 (人)

月齢	回答者全体(%)	自由回答あり(%)
0ヶ月	3 (0.6)	2 (0.6)
1ヶ月	216 (42.7)	138 (41.7)
2ヶ月	270 (53.4)	177 (53.5)
3ヶ月	7 (1.4)	6 (1.8)
4ヶ月	5 (1.0)	5 (1.5)
5ヶ月	1 (0.2)	1 (0.3)
6ヶ月	1 (0.2)	0 (0)
不明	3 (0.6)	2 (0.6)
計	506 (100)	331 (100)

表3：児の出生順 (人)

出生順	回答者全体(%)	自由回答あり(%)
第1子	259 (51.2)	174 (52.6)
第2子	183 (36.2)	122 (36.9)
第3子	55 (10.9)	30 (9.1)
第4子	7 (1.4)	5 (1.5)
第5子	2 (0.4)	0 (0)
計	506 (100)	331 (100)

2. 支援内容

訪問時の支援内容は、【話を聞いてもらえた】【尊重してもらえた】【児の健やかな成長発達が確認できた】【相談できた】【知識や情報が得られた】の5つであった(表4)。

【話を聞いてもらえた】は、人と話ができる機会の提供という支援であった。〈話し相手になってもらえた(7件)〉、〈話を聞いてもらえた(27件)〉、〈十分時間を取って話せた(5件)〉が含まれていた。

【尊重してもらえた】は、児や母親の意向を優先するという支援であり、〈楽しい時間が過ごせた(14件)〉、〈子どもに優しく接してくれた(5件)〉、〈親切に接してくれた(17件)〉、〈自分の育児を認めてもらえた(15件)〉が含まれていた。

【児の健やかな成長発達が確認できた】は、児の成長発達と健康状態の確認に関する支援であった。〈体重測定してもらえた(42件)〉、〈児の成長が確認できた(13件)〉、〈体重の増えの心配が解消できた(7件)〉、〈児の健康が確認できた(4件)〉が含まれていた。

【相談できた】は、訪問員の相談的対応による支援であった。〈些細なことも相談できた(9件)〉、〈気になっていたことが相談できた(44件)〉、〈気軽に相談できた(7件)〉、〈新たな疑問が出てきたときにちょうど相談できた(10件)〉、〈第一子ではないが不安や相談がある(18件)〉など、相談したいことがあった利用者が、相談的対応を受けられたことを示していた。また、〈訪問中に聞きたいことを引き出してもらえた(3件)〉、〈上の子の相談に乗ってもらえた(8件)〉は、利用者が当初訪問時相談していい、もしくは相談したいと思っていなかったことがらに対し、相談的対応を受けていることを示していた。

また、〈質問・疑問に丁寧に答えてもらえた(28件)〉、〈親身になって相談に乗ってもらえた(2件)〉、〈適切な助言が得られた(15件)〉、〈具体的に教えてもらえた(2件)〉 質問や相談への対応が含まれていた。

【知識や情報が得られた】は、資料や情報の提供に関する支援であった。〈情報提供してもらえた(70件)〉には、具体的に、予防接種の情報(4件)、医療機関の情報(2件)、保育施設の情報(3件)、地域の育児支援サービスの情報(20件)、子どものケア・接し方(11件)、離乳食の情報(3件)、児の発達(1件)、母親自身のケア(4件)が含まれていた。〈資料がもらえた〉は、情報媒体の提供という支援であった。

表4：支援の内容

()内の数字は、回答の件数を示す

支援の内容	回答の抜粋	
話を聞いてもらえた	話し相手になってもらえた(7)	◆久しぶりに家族以外の方と会話することができて嬉しかった。 ◆家ではほとんど子どもと1対1なので話し相手をしてもらえて良かった。
	話を聞いてもらえた(27)	◆まったく関係ないことまでたくさん話してくれ、また聞いてくれて嬉しかった。 ◆些細なことでも耳を傾けてくれたことが嬉しかった。
	十分時間を取って話せた(5)	◆時間もたっぷり取ってもらえたので、ゆったりと話すことができた。
	楽しい時間が過ごせた(14)	◆楽しい時間を過ごせた。 ◆明るく優しい笑顔の訪問員と子どもの話が出来る嬉し時間を過ごすことができた。
	子どもに優しく接してくれた(5)	◆手指消毒やエプロンをしている姿にびっくりしたが、赤ちゃんのことを考えてくれていたと思った。 ◆どんな人が来るのかドキドキしていたが、感じがよく、息子の事も可愛がってくれたので安心した。
	親切に接してくれた(17)	◆母親に対しての細やかな気遣いを感じた。 ◆母乳なのにタバコを吸ってしまい後悔していたが、訪問員が優しく接してくれたので、気分が落ち着いた。
	自分の育児を認めてもらえた(15)	◆2人の育児は思ったより大変でいっぱいになってしまいう事もあるが、「上手に子育てしていますね」と言ってもらえたので嬉しかった。 ◆「よく頑張っていますね」と言われて、これからもがんばる意欲がわいてきた。
	体重測定してもらえた(42)	◆体重測定があったので満足している。 ◆気になっていた体重を計ってもらえた。
	児の成長が確認できた(13)	◆子どもの成長がはっきりと分かって嬉しかった。 ◆「順調に育っています」と言われたことに、とても励まされた。
	体重の増えの心配が解消できた(7)	◆赤ちゃんの体重のことが気がかりだったが、1日に増える体重などを教えてもらい、参考になった。 ◆第2子だが、体重が増えない、母乳の飲みが悪いので足りているか等の心配事があったので、相談に乗ってもらい助かった。
児の健康やかな成長発達が確認できた	児の健康が確認できた(4)	◆子どもの体重の増加なども知ることができ、その中で健康だということも知ることができた。 ◆退院後、医療関係者と話をする機会もないので、成長具合や、異常がないか見てもらえて良かった。
	些細なことも相談できた(9)	◆病院と違って、ゆっくり落ち着いて話すことができたので、日頃思っている些細な事も相談できて良かった。 ◆病院に連れて行くほどではないけれど、気になっていた事が色々聞けて良かった。
	気になっていたことが相談できた(44)	◆日ごろ気になっていたことや分からないことが相談できて良かった。 ◆いくつかが聞いてみたいことがあったので、それが解消されてすっきりした。
	たくさん相談できた(9)	◆たくさん相談にのってもらい、保健師の体験も含めて、話を聞くことができたので大変勉強になった。 ◆私が気になっていた事は全部聞く事ができ、とてもためになった。
	気軽に相談できた(7)	◆今回のような訪問があれば、疑問に思っていることを気軽に相談できるので良いと思った。 ◆病院では聞きづらい細かいことを気さくに教えてもらえたのが嬉しかった。(哺乳瓶のこと、果汁のこと、頭の形の事など)
	家庭でしかできない相談ができた(1)	◆普段生活している状態を見てもらえたので、「エアコンの温度はこんな感じで、こういう生活環境で大丈夫？」といった、家庭訪問でしか分からない質問に答えてもらえ、安心できた。
	相談の機会があって良かった(11)	◆普段は子どもと2人きりで一日中過ごしているの、色々悩むこともあるが、相談できる相手がなかなかいなかったため、今回の訪問で色々聞けて良かった。 ◆民間の相談場所でも思った答えが返ってこず、どこに聞こうかと思っていた時だったので、とても良かった。
	相談しやすい訪問員に来てもらえた(19)	◆訪問者さんがとても優しく丁寧だったため、相談しやすかった。 ◆訪問員の方も気さくに話してくれたので、質問も聞きやすかったと思う。
	新たな疑問が出てきたときにちょうど相談できた(10)	◆1ヶ月健診の頃から日がたち、その時には見られなかった心配事をこの訪問でゆっくり聞くことができ、安心した。
	相談できた	第1子ではないが不安や相談がある(18)
訪問中に聞きたいことを引き出してもらえた(3)		◆日ごろ何でもないと思っていたことも、話しをするにつれて聞きたいことがたくさん出てきたので、こういう機会がなかったらなかなか聞けなかったと思う。 ◆最初は質問する予定も全くなかったが、とても感じの良い訪問員だったので、話しているうちにどんどん質問が出てきた。2時間近く話せたおかげで、気になっていた事や不安が全部なくなった。
上の子の相談に乗ってもらえた(8)		◆2番目の子なので、赤ちゃんのことよりも上の子の接し方が分からなかったが、この訪問で聞いてよかった。
質問・疑問に丁寧に答えてもらえた(28)		◆親切にいろいろ教えてもらったり、聞いてもらったりして楽しい時間だった。 ◆気にしている事一つ一つきちんと教えてもらえたので、とても助かった。
親身になって相談に乗ってもらえた(2)		◆まわりから「足りないんじゃない」「ミルクにしたら」と言われ悩んでいたが、今回の訪問で親身に相談にのってもらい、分からないことや気がかりだったことすべてが解決できた。
知らないことを教えてくれた(3)		◆知らなかった事なども教えてもらうことができたので良かった。
適切な助言が得られた(15)		◆本を読んでも理解できなかったことに関してわかりやすく答えてもらえたのが良かった。 ◆ひとつ聞いたことに詳しく複数の方法を教えてくれたので、自分で選択できるところが良かった。
具体的に教えてもらえた(2)		◆2人目の育児にも関わらず、分からないことや対応に迷うことがあった。助産師に直接赤ちゃんへのかかり方を教えてもらう事で、コツが少し分かったような気がする。
情報提供してもらえた(70)		◆育児をはじめた時に知っておけば安心できる情報を、今回知ることができた。 ◆もらった情報は知らなかったことばかりだった。出かけるのが楽しみになり、明るい気持ちになれた。
知識や情報が得られた		予防接種の情報(4)
	医療機関の情報(2)	◆小児科のこと教えてもらい本当に良かった。 ◆救急病院や育児相談に関する情報を教えてもらえたことは良かった。
	保育施設の情報(3)	◆保育園のことも教えてもらえて助かった。
	地域の育児支援サービスの情報(20)	◆転動してきたばかりだったので、近くで開催しているイベントや遊び場所等が参考になる。 ◆市役所のHPでは得られなかった地域の情報等を教えてもらい、とても助かった。 ◆訪問によって、育児相談など行っている場所など、これから必要だと思う情報を得ることができた。
	子どものケア・接し方(11)	◆前抱きの仕方やうつぶせの方法など、今回の訪問でよくわかりとても良かった。 ◆聞くことと見るのでは、全然理解度が違うとあらためて思った。グズった時の対応の仕方や母乳の与え方が非常に参考になった。
	離乳食の情報(3)	◆5ヶ月まで離乳食を待った方がよいことを知ることができて良かった。
	児の発達(1)	◆赤ちゃんの一つのしぐさが成長するにつれて、次はこんな動きにつながるなど、発達段階についても話してくれたのでおもしろかった。
母親自身のケア(4)	◆育児の相談から肩こりを軽くするマッサージを教わり、ちょっとしたグチまで聞いてもらったら楽になった。	
資料がもらえた(8)	◆話をするだけでなく、パンフレットをもらえたこと、新しい情報を知ることが出来て良かった。 ◆資料を色々持ってきてもらい助かった。2人目なので、特に何も勉強してないので、「そうだった」と資料をみて発見している。	

3. 訪問の効果

訪問の効果は、【子育ての助けが得られた】【楽な気持ちになれた】【子育てに肯定的になれた】、【子育ての価値が高まった】の4項目であった(表5)。

【子育ての助けが得られた】は、今後子育てを行っていくにあたり、その助けとなる情報や経験が訪問中に得られたという効果である。〈家族の協力の促進になった(1件)〉、〈参考になった(15件)〉、〈新たな発見が得られた(3件)〉、〈今後困った時の相談先がわかった(12件)〉の4項目が含まれていた。

【楽な気持ちになれた】は、精神的負担の軽減に関する効果である。〈明るい気持ちになれた(2件)〉、〈気分転換になった(22件)〉、〈ストレスが発散できた(5件)〉、〈つらいのは自分だけでは

ないと分かった(5件)〉、〈気が楽になった(17件)〉、〈リラックスできた(5件)〉、〈不安が軽減・解消した(17件)〉、〈安心できた(8件)〉の8項目が含まれていた。

【子育てに肯定的になれた】は、子育てへの向き合い方に関する効果であり、〈子育てに自信がついた(16件)〉、〈交流や外出に積極的になれた(15件)〉、〈前向きになれた(2件)〉、〈子育てを頑張ろうと思った(13件)〉の4項目であった。

【子育ての価値が高まった】は、子育てに対する認識の肯定的な変化という効果である。〈楽しく育児したいと思った(7件)〉、〈児がより愛しくなった(1件)〉、〈母親の実感がわいた(1件)〉、〈改めて子育てについて考えられた(1件)〉の4項目であった。

表5：訪問の効果

()内の数字は、回答の件数を示す

訪問の効果	回答の抜粋	
子育ての助けが得られた	家族の協力の促進になった(1)	◆今日は父親も一緒だったので、アドバイスなどを聞いて、より一層育児に協力してくれると思う。
	参考になった(15)	◆育児について参考になる話をたくさんしてもらった。
	新たな発見が得られた(3)	◆自己流の子育ての毎日だが、今日新しい発見もあり、また子育てをがんばって楽しんで行こうと思うことができた。
	今後困った時の相談先がわかった(12)	◆今の時点で育児に関する悩みはないが、これから相談したい時どこにすればいいのか分かり助かった。
楽な気持ちになれた	明るい気持ちになれた(2)	◆たくさん話ができて明るい気持ちになれた。
	気分転換になった(22)	◆外出がなかなかできない時期なので、気分転換になった。
	ストレスが発散できた(5)	◆話し相手になってもらったので、ストレス解消にもなった。
	つらいのは自分だけではないと分かった(5)	◆ちょうど悩んでいるときに訪問してもらい話を聞いてもらえただけで「私だけが悩んでいるのではないのだ」と分かった。トラブルが解決した訳ではないが、気持ちが落ち着いたので、本当に良かった。
	気が楽になった(17)	◆気が楽になった。
	リラックスできた(5)	◆ゆったりとした時間を過ごす事ができた。
	不安が軽減・解消した(17)	◆自己流の育て方で大丈夫か不安もあったので、少し解消できたように思う。
	安心できた(8)	◆泣くのはすべておなががすいており、母乳が足りないのではないかと考えていたので、話やアドバイスを聞いて安心した。
子育てに肯定的になれた	子育てに自信がついた(16)	◆誰も褒めてくれず、どれが正解なのか分からない育児だったが、今回の訪問で子どもの成長も知ることができ、しっかりケアが出来ていると言われたので、自信がついた。
	交流や外出に積極的になれた(15)	◆周りの協力を得ながら自分なりに子育てを楽しみながら余裕をもってやっていると感じることができた。
	前向きになれた(2)	◆勇気を出して、子育て支援センターに遊びに行ってみようと思った。
	子育てを頑張ろうと思った(13)	◆これからは色々な人と交流し楽しい育児ライフを過ごそうと思った。
子育ての価値が高まった	楽しく育児したいと思った(7)	◆いろいろなことを知ることができ、今まで以上に前向きになれた。
	児がより愛しくなった(1)	◆育児について小さな悩みがあり、毎日これでいいのかと悩んで過ごしている中で、このような訪問があればまた頑張ろうという気持ちになるので、とてもいいと思った。
	母親の実感がわいた(1)	◆今回の訪問はとて有り難く、これからも育児を頑張っていこうという気持ちになれた
	改めて子育てについて考えられた(1)	◆初めての育児だけれど、楽しくやっていけそうだった。

4. 制度・サービスの評価

制度・サービスの評価は、【訪問サービスの評価】と【制度への意見・要望】に大別された。訪問サービスの評価には、〈家庭訪問サービスの受

け止め〉、〈訪問での支援の評価〉、〈訪問員の評価〉、そして〈子育て支援サービスとしての評価〉が含まれていた(表6)。

表6：制度・サービスの評価

◆：回答の抜粋

()内の数字は、回答の件数を示す

訪問サービスの評価	<p>〈家庭訪問サービスの受け止め〉 訪問を楽しみにしていた(4) ◆今回の訪問を妊娠中から楽しみにしていた。 ◆周りに相談できる相手がいない事から、訪問を心待ちにしていた。 訪問してもらって良かった(6) ◆今回の訪問は私と子どもにとってはすごくプラスになったと思う。 ◆3人目で初めて訪問してもらい、率直に「来てもらって良かった」という感想を持った。 訪問前に戸惑いや不安を感じる(7) ◆始めは来るまで、どんな話をするのかよく分からなかったので戸惑いがあった。 ◆当初は訪問を煩わしく思っていたが、今は来てもらって良かったと思う。 訪問に戸惑いを感じる(3) ◆私の性格もあるが、初めて会う人にどこまで話をしているかわからず、後でもっと詳しく話したり聞いたりしたら良かったと思う。 ◆今回初めてのことで、何を聞いたら良いのかわからなかった。</p>
	<p>〈訪問での支援の評価〉 申し込まなくても来てもらえてよかった(7) ◆希望者だけというシステムだと、私も希望していなかったかもしれないので、全家庭対象にして良かったのではないと思う。 ◆第1子の時に希望者のみで、ハガキを出してまで来宅してもらわなくても感じていたが、今回の第2子では市から来宅してもらえ、気分的に負担がなかった。/自分のほうから問い合わせをして質問する事が苦手な私にとって、良い機会だった。 普段外出できないので、訪問してもらってよかった(21) ◆産後の外出もままならず、外部の方と接する機会が少ない為直接赤ちゃんを見て触って相談ができるこの訪問は良い活動だと思ふ。 ◆上の子がいてなかなか育児相談に行き話聞いてもらう時間がもてないので、訪問してもらえて、とても良かった。 自宅でくつろげた(6) ◆自宅で私自身がくつろいで話すことができ、有意義な時間を過ごすことができた。 ◆病院だと他にも患者がいるので、時間を気にしてしまい、聞きたいことも全部聞けなかった。 1対1で良かった(5) ◆いろいろな所で相談できるところもあるが、家なら1対1なので遠慮なく聞ける。 ◆何より個別なので相談もしやすく、本当に良かった。 自宅で様子を見てもらった(3) ◆インターネットや雑誌などである程度のことでは調べられるが、個人のことを十分に理解することはできない。今回訪問で我が子の情報が得られ、安心することができた。 ◆普段生活している状態を見てもらったので、「エアコンの温度はこんな感じで、こういう生活環境で大丈夫？」といった、家庭訪問でしか分からない質問に答えてもらい安心できた。 直接話せるのが良かった(6) ◆育児書などの知識よりも、やはり身近にいる人に直接教えるを請う方がずっと安心できる。 ◆3人目で初めての経験だったが、書類を手渡しでもらえるのが、温かみがあって良かった。ただ書類を送られるだけでは、2人目以降の場合は特に見ない人もいるのではないかと思った。</p>
	<p>〈訪問員の評価〉 訪問員の印象が良かった(43) ◆保健師はまさに赤ちゃん訪問をするのにぴったりの人だと思った。 ◆訪問員の人が良かった。 ◆とても感じのよい訪問員で話しやすかった。 専門職の支援が得られた(11) ◆今まで友達には聞いたり相談したりしていたが、専門の方に聞くことができすごく良かった。 ◆病院以外で助産師さんに産後間もない時期に会える機会があるのはすごく心強いと思った。 助産師に来てもらいたかった(1) ◆赤ちゃんの事だけではなく、自分の体についても相談したかったので、助産師に来てもらいたかった。 子育てで経験を聞くことができた(21) ◆2人の子どもさんを持っておられる看護師さんの訪問がより頼もしく、説得力があった。 ◆経験談が何より共感でき、身近に感じられた、自分もそうしてみようと思えた。 同世代と話せてよかった(4) ◆同じ年代の方に来ていただき、お話できて嬉しかった。 ◆保健師が自分と年齢が近く、話しやすいことも良かった。 別世代の人の訪問が参考になった(2) ◆訪問員が元助産師で自分の母親と同じくらいの年齢だったので、母に言われることや、昔と今の医療の違いを詳しく説明してくれたので、安心して子どもに接することができるようになった。 知っている人の訪問で良かった(2) ◆自分が出産した所の助産師さんが来てくれたので、色々聞くことができて良かった。 ◆訪問員が、1人目が産まれた病院に勤めていた人だったので、顔を知っていたので、話も弾んだ。</p>
	<p>〈子育て支援サービスとしての評価〉 子育て支援サービスとして肯定的に評価(15) ◆私たち母親にとって、とても強い味方ができて心強いと思った。 ◆素晴らしいサービスだと思う。 ◆私自身は、育児について相談する人もいて特に不安などないが、周りに相談する人もなく悩んだりしている人には、こういう訪問によって少しでも安心できる事があると思う。 他の人にも勧めたい(1) ◆もし、私の周りで悩んでいる人がいたら、子どもの年齢に限らず、相談してみる事を勧めたいと思う。 感謝・励まし(7) ◆私のところへ来てくださった訪問員さん、ありがとうございます。これからもたくさんのお母さんたちに子育ての希望を聞かせてあげてください。 ◆こういった保健師さんがもっともって増えてくれたらいいなと思う。 以前あればよかった(15) ◆1人目の時にもこういう訪問があれば良かったと思った。 ◆第1子のときは、赤ちゃん訪問制度がなかったので、1人目のときにあれば良かったと思った。</p>

表6：制度・サービスの評価 つづき

◆：回答の抜粋

()内の数字は、回答の件数を示す

制度への意見要望	<p>〈制度の存続・発展に関する意見・要望〉</p> <p>次の出産でも訪問を希望(8)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆もし、次に子どもを授かることがあれば、またお願いしたいと思っている。 ◆2人目が生まれた時もお世話になりたい。 <p>制度の継続を希望(46)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆素晴らしい事業だと思うのでこれからも続けてほしい。 ◆少子化の時代とはいえ、全家庭訪問は大変なことと思うが、ぜひ続けてもらいたいと訪問してもらって感じた。 ◆この訪問は絶対になくならずに続けてほしい。 <p>制度の拡充を希望(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆家庭訪問は良いことだが、生後1～3ヶ月の子がいる家の訪問だけで本当に良いのだろうか疑問に思った。育児の相談をしてくる友達の多くは、保育園に入るまでの1～3歳までの子どもの事が多い。訪問することにより、少しでも多くの母親や子供たちを救ってあげてほしい。 <p>複数回希望(55)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆今回だけでなく、何度か訪問して欲しい/離乳食や保育所などの相談が具体的に出来る6ヶ月頃にも訪問があるとよい。
	<p>〈制度の実施・運用に関する意見・要望〉</p> <p>全員には必要ない(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆このような形で強制的に訪問されるのは嫌に思う人も多いと思うので、希望者のみでもいいと思う。 ◆2人目以降は希望者のみの訪問で良いと思う。 ◆届け出をした時にパンフレットや相談できる場を教えてください。 <p>職員の資質・マナー(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆玄関を開けると、すぐに「お世話になります」といって上がったので、訪問があると知っていたが、一言「市のものです」と自己紹介があってもいいと思った。 ◆訪問員は助産師や小児看護師の資格が経験があるかわからなかったので説明してほしい。 ◆夏真っ盛りでも暑い中、お茶も飲んで行かなかった。規定だとしても夏でこれだけ暑い中での訪問なので、飲んでもらえたらよいのと思った。 <p>サービスの内容の要望(22)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆母乳なので、マッサージがあれば良かった。 ◆心臓マッサージや人工呼吸、異物の吐き出させ方など人形等で教えてもらえるとよい。 ◆ベビーマッサージの仕方を教えてもらえるとよい。 ◆予防接種の冊子が訪問時にあるとありがたい。 ◆身長・胸囲・頭囲も計ってほしい。(17) ◆聞きたい事はたくさんあったが、1時間くらいの短い時間では、なかなか全部を聞く事ができなかったで、もう少しゆっくり話す事ができたらよかった。 <p>訪問時期について(29)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ちょうど慣れ始めた時期だったので、この時期の訪問は適切だった。 ◆1ヶ月になるまでも辛かったりしたのでもっと早く来てもらえるとよかった。 ◆もう少し後日での訪問が良かった。 <p>訪問日/時間の調整について(9)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆訪問日時を調整していただきありがたかった。/出来れば午後から良かった。 ◆色々話ができるように1日回るところにゆとりを持たせて行うととてもいいと思う。 ◆人によって来てほしいタイミングは違うと思うので2ヶ月と決めないで対応してもらえるといい。 <p>訪問の連絡方法について(11)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆訪問日時の通知がもう少し早く届けば良い。 ◆訪問の際、何をするのか内容を事前に送って教えてもらえるとよかった。 ◆訪問日時の事前連絡はとても親切だと感じた。 ◆日時を決めたハガキに当日かかる時間を目安として記載してほしい。

〈家庭訪問サービスの受け止め〉は、訪問員の自宅への訪問を、利用者がどのような体験として受け止めたかを評価したものである。訪問を楽しみにしていた(4件)や、訪問してもらって良かった(6件)など、肯定的に受け止められていた一方で、訪問前に戸惑いや不安を感じる(7件)や訪問に戸惑いを感じる(3件)など、家に訪問員を招き入れることへの戸惑いを感じている利用者もいた。

〈訪問での支援の評価〉は、訪問という支援手段に対する評価である。申し込まなくても来てもらえてよかった(7件)、普段外出できないので訪問してもらってよかった(21件)、自宅でくつろげた(6件)、1対1で良かった(5件)、自宅で様子を見てもらえた(3件)、直接話せるのが良かった(6件)と、訪問だからこそ受けられる

支援だということ意識して、肯定的に評価されていた。

〈訪問員の評価〉は、サービスを提供した訪問員に対する評価である。訪問員の印象について、最も多い43件の意見が寄せられていた。他に、専門職の支援が得られた(11件)、助産師に来てもらいたかった(1件)と、専門的な支援を評価する意見や、子育て経験を聞くことができた(21件)と訪問員が子育て経験者であることを肯定的に評価した意見、また、同世代と話せてよかった(4件)、知っている人の訪問で良かった(2件)と、親近感の湧く訪問員であったことに対する肯定的な意見があった。その一方で、別世代の人の訪問が参考になった(2件)と、別世代であることの利点を感じている利用者もいた。

〈子育て支援サービスとしての評価〉は、子育て

て支援サービスとして肯定的に評価（15件）されており、中には、他の人にも勧めたい（1件）という意見を持つ利用者もいた。アンケートの自由記載欄に感謝・励ましの内容のみを記載していたのは7件であった。また、以前あればよかったという意見が15件あった。

制度への意見・要望は、〈制度の存続・発展に関する意見・要望〉と〈制度の実施・運用に関する意見・要望〉の2つであった。

〈制度の存続・発展に関する意見・要望〉には、次の出産でも訪問を希望（8件）、制度の継続を希望（46件）があり、回答者の1割以上が、制度の存続を希望する意見を記述していた。これと同様に、制度の拡充を希望（4件）と複数回希望（55件）を合わせ、回答者の1割以上が制度の拡充を望む意見を述べていた。

〈制度の実施・運用に関する意見・要望〉として、全員には必要ない（7件）と、全戸への訪問に対する否定的な意見が挙がっていた。また、サービスの内容の要望（22件）や、職員の資質・マナー（7件）について改善や充実を求める声が挙がっていた。加えてほしいサービスの内容は、身長測定が17件であり、その他に、乳房マッサージ、ベビーマッサージ、救急法の指導、予防接種の資料が挙がっていた。このうち、ベビーマッサージについては、教えてもらったと回答している利用者がいた内容であった。その他、訪問時期について（29件）は、適切な時期であるとの意見（19件）の他、もっと早い方がいいという意見（6件）と、もっと遅い方がいいという意見（4件）があった。訪問日／時間の調整について（9件）は、調整できるとよいという意見とともに、調整してもらえてよかったという意見が寄せられていた。訪問の連絡方法について（11件）は、はがきによる訪問日の事前通知という方法に対し、丁寧・親切等の肯定的な意見と、目的や所要時間等の情報提供不足に対し改善を求める意見が寄せられていた。

V. 考察

1. 乳児家庭全戸訪問事業における支援とその効果

1) 支援の内容

利用者の回答から確認できたこんにちは赤ちゃん訪問における支援内容は、話し相手となること、対象者の尊重、児の健康状態及び成長発達の確認、そして、相談的対応と知識・情報の提供であった。これらの支援は、A市こんにちは赤ちゃん訪問の訪問手順に含まれていることから、手順で示された支援が訪問員によって確実に提供され、それが支援として利用者に受け止められていたことを表している。

厚生労働省の乳児家庭全戸訪問事業ガイドライン⁹⁾では、効果的かつ効率的な事業実施の観点から、母子保健法に基づく訪問指導と乳児家庭全戸訪問事業を合わせて実施して差し支えないという見解が示されており、A市もこの2つの事業を合わせて行うという方針のもと、事業を展開している。児の健康状態及び成長発達の確認や、知識・情報の提供を含めた相談的対応は、従来の乳幼児及び産婦訪問事業の目的であり、A市乳児家庭全戸訪問事業においても、この目的を達成するための支援が行われていた。これに加え、A市こんにちは赤ちゃん訪問では、支援によるエンパワメントを基本理念としている。支援として【話を聞いてもらえた】や、【尊重してもらえた】が挙げられていたことは、傾聴や共感などのコミュニケーション技術を用い、エンパワメントを意図した支援が提供されていたことを裏付けている。

一方、母親の体調や健康管理に関する支援は、マッサージ方法の指導については意見が挙がっていたものの、その他の支援内容や、体調や健康管理への支援の効果は述べられていなかった。母親の健康に関する支援も訪問手順に含まれており、実際には何らかの支援が行われているものと思われる。しかし、自由回答の分析であるため、利用者にあえて意見として取り上げる内容として意識されていなかったことや、体調への気遣いを含め

て、〈優しく接してもらえた〉や〈相談できた〉などの回答がなされたのではないかということが推測される。

2) 支援によるエンパワメントの効果

野嶋ら¹⁰⁾はエンパワメントを「能力を開花するプロセス」と定義しており、評価の枠組みとして、オープン性の高まり、能力の開花、現実に立ち向かう意欲の芽生え、生活の質の改善、自己決定、満足、希望の感覚、自己成長、コントロール感という9項目を提示している。この9項目それぞれを本研究の結果と照らし合わせると、〈交流や外出に積極的になれた〉、〈家族の協力の促進になった〉はオープン性の高まりに含まれ、また、能力の開花は、〈新たな発見が得られた〉、〈改めて子育てについて考えられた〉が含まれていた。以下、現実に立ち向かう意欲の芽生え：〈子育てを頑張ろうと思った〉、生活の質の改善：〈不安が軽減・解消した〉〈児がより愛しくなった〉、自己決定：〈適切な助言が得られた〉、満足：〈子育てに自信がついた〉、希望の感覚：〈明るい気持ちになれた〉〈楽しく育児したいと思った〉〈前向きになれた〉、自己成長：〈母親の実感がわいた〉、コントロール感：〈今後困った時の相談先がわかった〉と、9項目すべてに対応する支援が確認できた。このことから、A市こんにちは赤ちゃん訪問における支援には、利用者のエンパワメントを多面的に促進するという効果があったと推察できる。

子育て支援における保健師の目標は、育児者自らが子どもや家族に適した育児を判断し自信を持って取り組めること、必要な時に自らサポートを求め活用できること、そして、子育てに適應した個々の家族の新しいライフスタイルを形成することの3つである¹¹⁾。これに基づくと、育児においてエンパワーされるべき能力とは、問題や状況に対する判断力、自信、サービスやサポートの活用能力、生活の再形成能力などが挙げられる。橋本ら¹²⁾は、母親の多くが「心配あり」と回答した項目のすべてが母親の不安と関連しているわ

けではないことを報告している。これは、心配ごとの解消軽減をすれば母親たちの育児不安がすべて軽減されるわけではないことを示している。むしろ、母親をはじめとする家族が自分たちで育児上の問題に対処し、それにより自らの力で対処できていることを実感し、この実感を通して自信がつくことで育児不安が軽減されるものと考えられる。つまり、育児不安が軽減されるプロセスは、エンパワメントのプロセスと重なっている。本研究の結果で支援の効果として挙げられた、子育ての助けの獲得、子育てへの肯定的な感情や肯定感、子育ての価値の高まりは、育児不安が軽減した状態を表すと共に、エンパワーされた状態を示していると捉えられる。

本アンケート調査の回答にも示されているように、乳児を育児中の母親は、外出もままならず、話し相手がないことから、一人で育児の心配や不安、問題に対処している。他者との相互作用における対話と気づきがエンパワメントプロセスの核として重視されている¹³⁾が、自ら気づきが得られるような対話を行えるだけの時間及び場の保障が確実にできるのが、訪問の特徴であるとも言える。以上より、乳児のいる世帯への全戸訪問は、エンパワメントを意図した子育て支援として効果的な支援手段だと考えられる。

3) 訪問員の専門性および資質による効果

厚生労働省の乳児家庭全戸訪問事業ガイドライン⁹⁾では、訪問員について、看護職等の専門職以外にも、母子保健推進員や子育て経験者などの非専門職に対し、研修を義務付けた上での訪問者としての資格の付与を認めている。しかし、本研究が対象としたA市では、看護職が支援を行っていた。

回答の中で、看護職、すなわち専門職であることの意義を述べた意見は11件であった。しかし、児の成長発達の確認ができたこと、適切な助言や知識・情報提供が受けられたこと等の回答数を考えると、訪問員が看護職であることの効果を感じている利用者は相当数存在するものと考えられ

る。これに関連して北山ら¹⁴⁾は、保健師による75歳以上高齢者の全数訪問がもたらす効果の背景には、訪問の中で行った援助が受け入れられ、保健師の役割を伝達できたことがあると考えていた。本研究の結果でも、訪問前に煩わしさを感じていた利用者が訪問後には来てもらって良かったと感じているなど、訪問時の支援が受け入れられたからこそその意見が含まれていた。

また、回答者の約13% (43件)が、訪問員の印象について肯定的な評価を述べていたことにも着目する必要がある。子育て中で年齢の近い訪問員であったことや、子育ての経験を話してもらえたことを効果として捉えており、利用者が、訪問員に対し、その専門性の高さを評価する前に、自分にとって身近に感じられる人柄かどうかを判断している様子がうかがえた。

これらのことは、専門職が訪問によって支援を行うにあたり、支援者として利用者に受け入れられることの重要性を表している。住民サービスとしての新生児訪問は、そのコミュニティに子どもを受け入れるという行政の意思表示とも受け取れる²⁾との指摘もあり、言い換えると、乳児家庭全戸訪問事業の利用者は、この訪問を受けた時の経験によって、自分たち子育て親子に対し行政がどのような姿勢で接しようとしているかを推し量っているのである。そのような利用者に、まず支援者として認めてもらうことが重要である。そして、どのような利用者であっても受け入れられるよう、いかに訪問員の資質を高められるかが、事業の効果を左右する鍵になる。さらに訪問支援の受け入れは、その後の母子保健サービス全般に対する印象に影響するものと思われる。訪問員の資質やマナーに対する要望が寄せられていることから、今後の訪問員の質の維持向上のため、利用者に受け入れられるコミュニケーションや援助関係形成スキルの習得を強化していく必要があると考える。

2. 乳児家庭全戸訪問事業の活用による効果的な母子保健活動のあり方

「申し込まなくても来てもらえてよかった」や「普段外出できないので、訪問してもらってよかった」など、訪問利用者自身が、全戸訪問であることの意義を実感していた。さらに利用者は、子育て支援サービスとして全戸訪問を肯定的に評価していた。一方で、全員への訪問を必要ないと考える者もあり、また、以前から新生児訪問の制度が存在していたことを知らない利用者もいた。自分や自分の家族にとってこのような訪問が必要かどうかを考えることは、利用者自身の主体的な制度利用の観点から重要である。しかし、たとえ児の養育者が訪問の必要性を感じていなくとも、虐待予防の観点から、すべての乳児に、訪問による育児状況や発育発達状況の確認という支援ニーズがあると考えられる。アンケート回答の中にも、育児不安への対応や虐待予防の点からの訪問の意義を理解し、サービス評価をしている利用者が存在していた。その一方で、訪問の目的や内容を理解していない利用者や、訪問に対する緊張や忌避感のある利用者もいる。訪問の意義や効果を利用者に感じてもらうためには、妊娠時からの周知が必要であり、合わせて、利用した母親の口コミによる制度周知を目指すことも重要だと考える。

さらに、本事業の活用としては、個々の家族のエンパワメントを、コミュニティ・エンパワメントへと拡大するための活動のあり方を考える必要がある。家庭訪問は本来、世帯単位での援助手段である。しかし、制度・サービスの評価として、自分にとっての意義だけでなく、他の子育て中の母親にとっての訪問事業の意味を考えた回答も多数寄せられていた。地域で生活する他の母子を意識できたということを考えると、全戸訪問事業を通じて母親たちに事業の意義や効果を考えることは、同じ地域に生活する親子の連帯感の育成を図る支援となり、コミュニティ・エンパワメントに通じる可能性がある。これまで、高齢者を対象とした全数訪問実施の効果には、受け持ち地区の対象把握、住民からの相談回路の拡大、家族の健康問題への対応、家庭訪問以外の資源利用の

促進など、訪問対象世帯への支援に関する効果に留まらず、地区活動における効果¹⁴⁾も確認されている。母子の訪問活動においても、個々の家庭に関わる機会を地域全体の活動につなげることを意識した全戸訪問活動の展開が重要だと考える。

3. 研究の限界および今後の課題

本報告は、自由回答式アンケートに寄せられた利用者の声を分析したものであり、利用者全員の意見と判断することはできない。また、本報告は利用者の意見からみた訪問効果を取り上げたものであり、支援と効果の関連について、実証性に限界がある。

今後、実際に支援を行った訪問員の視点からの評価や、指標開発とそれに基づくより実証的な調査研究を行う必要があると考える。

本研究を、平成22年度基盤研究(C)「乳児全数訪問事業を基盤としたポピュレーションアプローチによる母子保健活動の再構築(研究代表者:時長美希)の一部として実施した。

本研究の一部を第2回日韓地域看護学会共同学術集会にて発表した。

引用文献

- 1) 水島春朔: 地域診断のすすめ方 根拠に基づく生活習慣病対策と評価 第2版, 医学書院, p98, 2010.
- 2) 平岩幹夫: 新生児訪問をめぐる 保健師さんに伝えたい24のエッセンス 親子保健を中心に, 公衆衛生看護, 73(8), p614-617, 2009.
- 3) 福島富士子: 次世代育成政策における産後育児支援体制の評価に関する研究, 厚生労働科学研究補助金 政策科学推進研究事業 平成20年度 総括研究報告書, p3, 2009.
- 4) 野嶋佐由美, 中野綾美: 家族エンパワーメントをもたらす看護実践, へるす出版, 1996.
- 5) Yukie Kameda, Keiko Shimada: Development of an empowerment scale for pregnant women, 金沢大学つるま保健学会誌, 32(1), 39-48, 2008.
- 6) 飯田美代子: 母親エンパワーメント質問紙の信頼性と妥当性の検討, 日本ウーマンズヘルス学会誌, 3, p19-26, 2004.
- 7) 涌水理恵, 藤岡 寛, 古谷佳由理他: 障害児を養育する家族のエンパワメント測定尺度 Family Empowerment Scale (FES) 日本語版の開発, 厚生学の指標, 11, p33-41, 2010.
- 8) 川口孝泰: 第7章 データの収集, 南裕子編, 看護における研究, 日本看護協会出版会, p144, 2008.
- 9) 平成21年3月16日雇児発第0316001号 「乳児家庭全戸訪問事業ガイドラインについて」
- 10) 野嶋佐由美: エンパワーメントに関する研究の動向と課題, 看護研究, 29(6), p453-464, 1996.
- 11) 佐藤紀子: 第1章発達段階の特性に応じた活動論 1. 子育て支援, 最新地域看護学 各論 1, p21, 2009.
- 12) 橋本美幸, 江守陽子: 産後12週までの母親の育児不安軽減を目的とした指導内容の検討, 小児保健研究, 69(2), p287-295, 2010.
- 13) 麻原きよみ: エンパワメントと保健活動 エンパワメント概念を用いて保健婦活動を読み解く, 保健婦雑誌, 56(13), p1120-1126, 2000.
- 14) 北山三津子, 平山朝子, 山岸春江他: 後期老年人口群に対する全数訪問, 千葉大学看護学部紀要, 11, p27-31, 1989.